

除外



No.169 在例

患者：13才男性（発症時中学1年生）

診断名：インフルエンザ感染症、多発骨折

家族歴：特記事項なし。父母は別居中で母子家庭。

既往歴：気管支喘息（3才～10才）

現病歴：以前より誰かに追いかけられるような感覚を伴う怖い夢を見ることがあった。平成19年3月5日、38.5℃の発熱および感冒症状を認めた。タミフル・テオフィリン・解熱剤を含む薬物の処方を受けていなかった。3月6日朝4時過ぎに「誰かが部屋にいる」「悪口を言った相手とその父親が自分を殺しに来るので死にたい」と怯えた様子で母親に訴えた。その日は学校を休み、21時半頃は平素と変わらぬ様子でそのまま入眠した。3月7日0時30分頃、自宅（3階）より転落し、現場で膝を抱えて座って叫んでいる状態で母親に発見され、救急要請。到着時の意識レベルJCS I-1、血圧130/90、心拍数102bpm、呼吸数36/min、SpO2 100%。多発外傷に対する精査加療のため、当院救急外来に搬送となった。なお、本人に転落の前後の記憶はなかった。

入院時現症：意識レベルJCS I-1、GCS E3V5M6、血圧134/98、体温38.2℃、心拍数102bpm、呼吸数36/min、SpO2 99%（酸素10Lマスク）、瞳孔径2.5/2.5、対光反射 +/+、右足関節及び右手関節に疼痛・腫脹・変形あり、左足背及び踵部に腫脹あり。

入院時検査所見：

（血液検査）WBC 11800/ μ l, RBC 563万/ μ l, Hb 15.7g/dl, Ht 46.8%, Plt 23.2万/ μ l, PT 11.3 sec, APTT 28.1 sec, Fib 384 mg/dl, CRP 1.86 mg/dl, GOT/GPT/LDH:76/31/1027IU/l, CK 332IU/l, T.B 0.7 mg/dl, BUN/Cre:9.0/0.75 mg/dl, Na 136mEq/l, K 3.9 mEq/l, Cl 98 mEq/l, Ca 9.6 mg/dl, Glu 161 mg/dl,（動脈血液ガス分析）pH 7.419, pCO2 38.0 mmHg, pO2 105.6 mmHg, HCO3 24.0 mmol/l, BE -0.2 mmol/

鼻腔ぬぐい液迅速診断：インフルエンザB抗原陽性。

頭部CT：脳浮腫なし。出血なし。頭蓋骨骨折なし。

胸部X線：肺炎像なし。

四肢X線：右足関節脱臼、脛腓骨遠位端粉碎骨折、右橈骨遠位端骨折。

入院後経過：

3月7日1時30分病着。意識レベルJCS I-1、体温38.2℃。頭部CTは正常で、脳症を疑わせる脳浮腫は認めなかった。臓器損傷なし。右足関節脱臼、脛腓骨